

令和7年度 町道大蔭線大蔭橋修繕工事

設 計 図 面

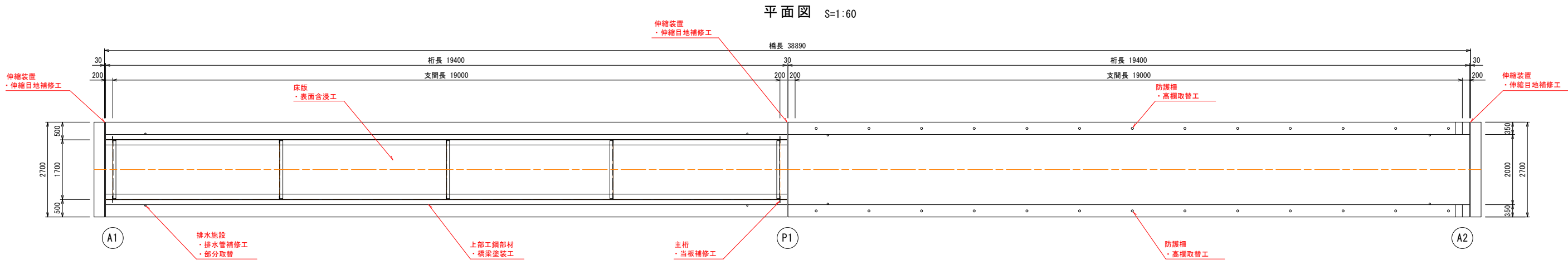
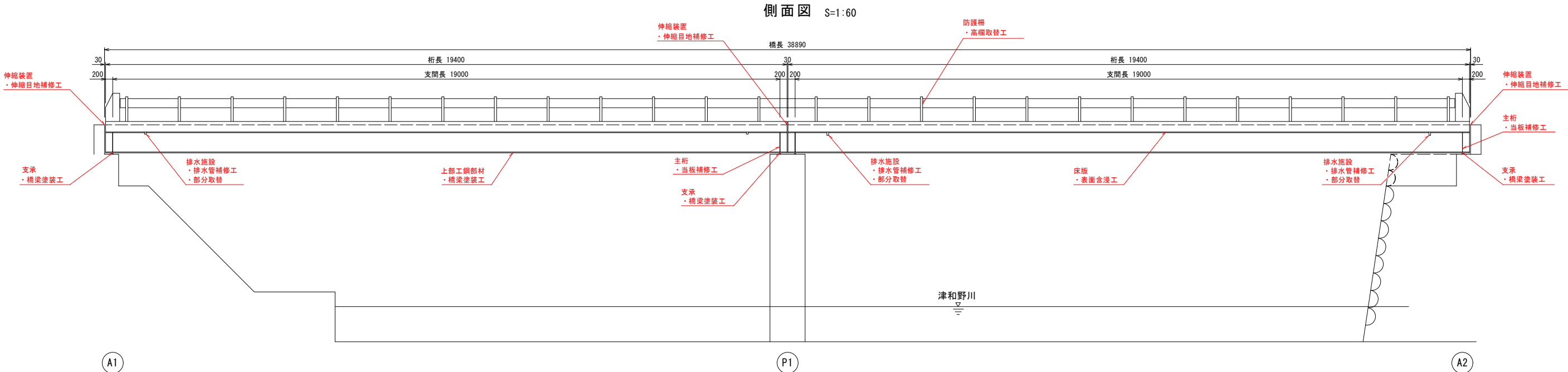
令和7年8月

津 和 野 町 建 設 課

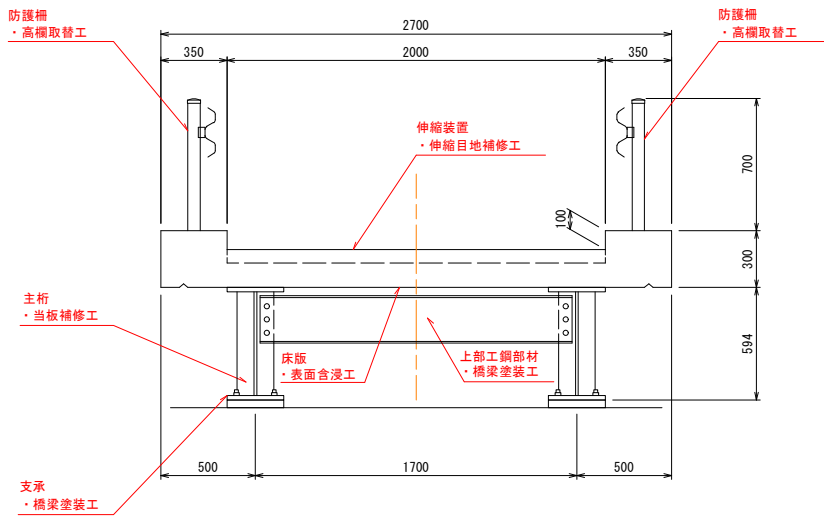
大蔭橋補修一般図

特記事項

- ・本図面は、テープやコンベックス等を用いて現地調査を行い作成したものである。
- ・施工に先立ち、打音検査などで劣化部を把握し、確認された脆弱部は確実に除去した上で、施工を行うこと。
- ・数量に大幅な変更が生じる場合には、監督員と相談し、方針を決定すること。
- ・施工前には必ず現況寸法実測を行い、計画内容と照合すること。



標準断面図 S=1:20



補修工一覧表（大蔭橋）

部 材 名	工 種
主桁・横桁	当板補修工
	橋梁塗装工
床 版	表面含浸工
支 承	橋梁塗装工
防 護 柵	高欄取替工
伸縮装置	目地補修工
排水施設	排水管補修工

年 度	令和 7 年度
番 号	県 号
工 事 名	町道大蔭線大蔭橋修繕工事
道川番号	町道大蔭線
施工箇所	鹿足 [®] 市 津和野 [®] 村 鷺原 地内
図面名称	大蔭橋補修一般図
縮尺	図示
設計	会 社 及 び 責 任 者
測 量	
監 査	
設 計	
7 葉 の 内 1	

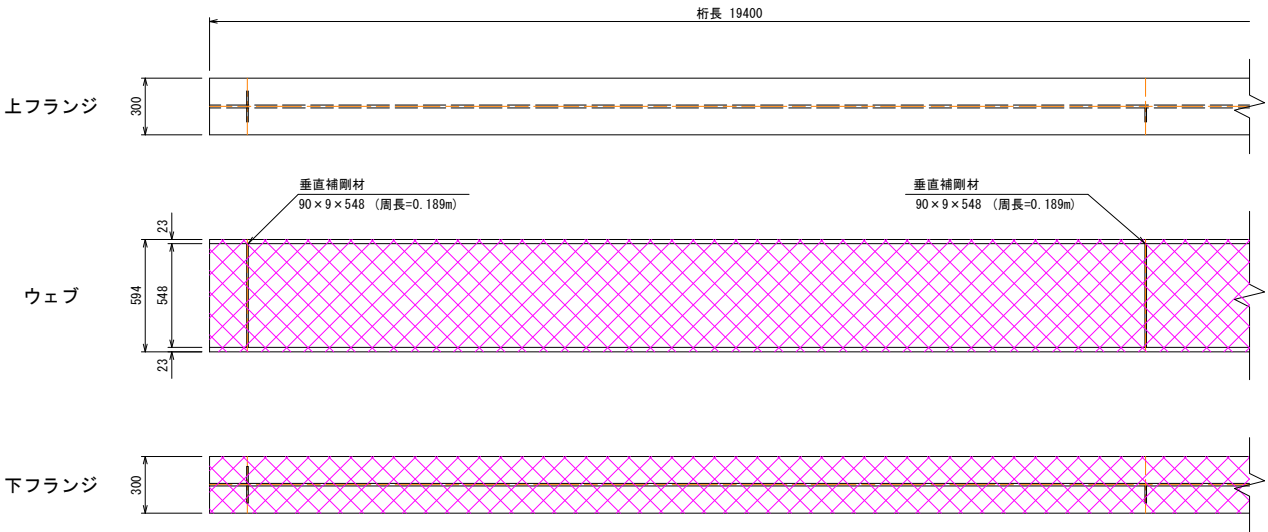
大蔭橋補修計画図（１）

橋梁塗装工（主桁・横桁・支承）

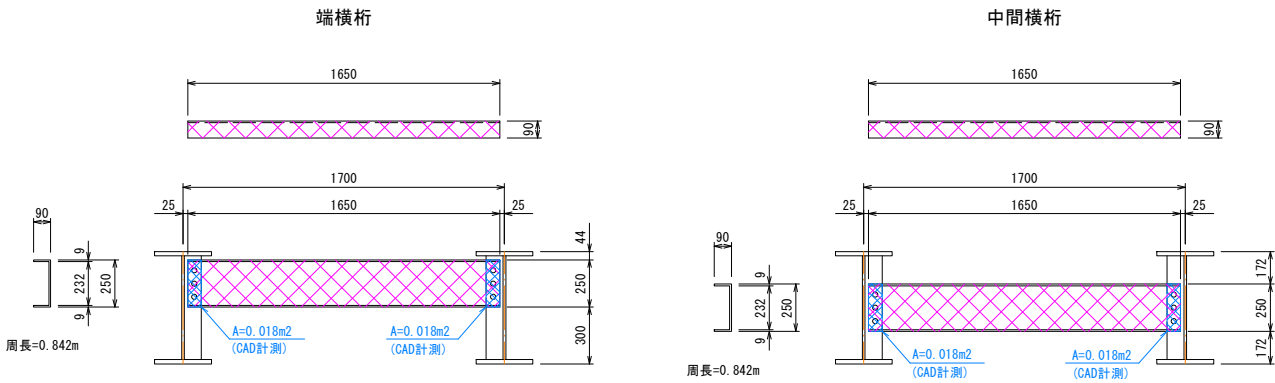
- 特記事項
- ・施工前には必ず現況寸法実測を行い、計画内容と照合すること。
 - ・数量に大幅な変更が生じる場合には、監督員と相談し、方針を決定すること。
 - ・塗装仕様に基づき、適切な施工を行うこと。
 - ・旧塗膜調査を行い、安全な作業と適正な廃棄物処理を行うこと。

凡 例	
塗装工範囲	
控除範囲	

主桁塗装工詳細図 S=1:20

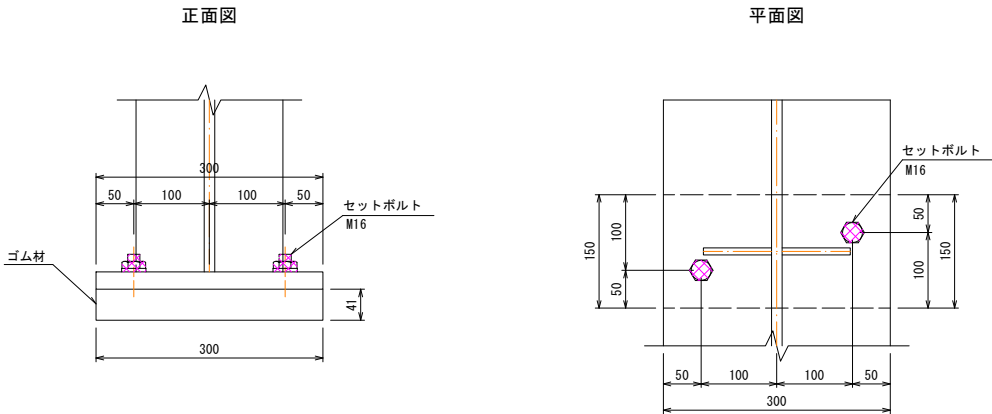


横桁塗装工詳細図 S=1:20



- ※塗装面積 (1本当り)
- (1) 主桁本体
A=0.842×1.650=1.389m2
- ※控除面積 (1本当り)
- (1) 横桁と垂直補剛材との接続面
A=0.018 (CAD計測) ×2=0.036m2

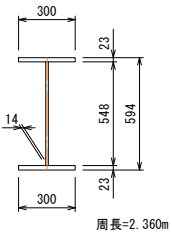
支承塗装工詳細図 S=1:5



※支承の塗装面積については、主桁の塗装面積に含める。

塗装面積（大蔭橋）			
部 材 名	箇所数	1箇所当りの面積 (m2)	合計面積 (m2)
主 桁	4	40.509	162.04
横 桁	10	1.353	13.53
※数量計算書を参照		総面積	175.57

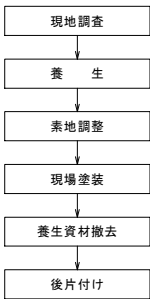
橋梁塗装工要領図



- ※塗装面積 (1本当り)
- (1) 主桁本体
A=2.360×19.400=45.784m2
- (2) 垂直補剛材 (7箇所)
A=0.189×0.548×7=0.725m2

- ※控除面積 (1本当り)
- (1) 上フランジ上面
A=0.300×19.400=5.820m2
- (2) 下フランジ下面と支承との接続面
A=0.300×0.150×2=0.090m2
- (3) 垂直補剛材と横桁との接続面
A=0.018 (CAD計測) ×5=0.090m2

施工フロー



1. 素地調整 (2種ケレンA)
2. サビバリヤー下塗り剤 (150g/m2)
3. 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料中塗 (140g/m2)
4. 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗 (120g/m2)

※旧塗膜の有害物質の含有量により、2種ケレン前に塗膜剥離剤により塗膜除去を行う。

年 度	令和 7 年度
番 号	県 道 第 〇 号
工 事 名	町道大蔭線大蔭橋修繕工事
道川番号	町道大蔭線
施工箇所	鹿足 市 津和野 町 鷺原 地内
図面名称	大蔭橋補修計画図(1)
縮尺	図示
設計者	会 社 及 び 責 任 者
測 量 者	
設 計 者	
7 葉の内 2	

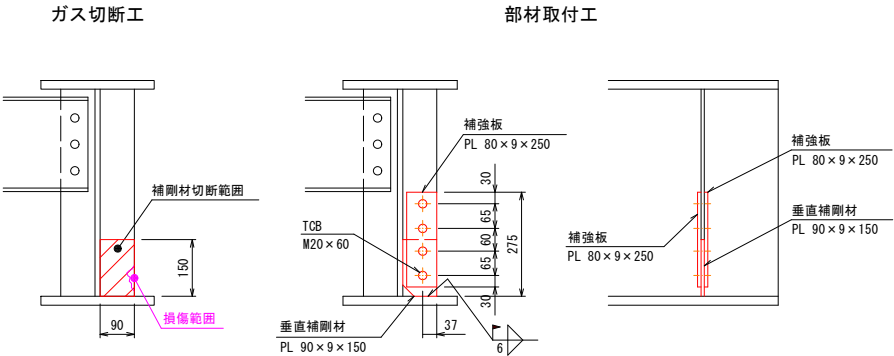
大蔭橋補修計画図（２）

当板補修工（主桁）

特記事項

- ・施工前に現況寸法計測等の確認調査を行い、施工寸法や数量を確定させること。
- ・数量に大幅な変更が生じる場合には、監督員と相談し、方針を決定すること。
- ・鋼材の切断面は、グラインダー等で平滑に仕上げる。
- ・部材取付前に金属パテを用いて、当て板との接合部を平滑な面に仕上げる。
- ・当板に使用する鋼材の材質は、補強板SS400、垂直補剛材SM400Aとする。

当板補修工（１） S=1:10
PIG2側



数量表（構造物撤去工）

名 称	規 格	単位	数 量
ガ ス 切 断 工	t=9mm	m	0.33

※算式は数量計算書を参照

数量表（当板補修工）

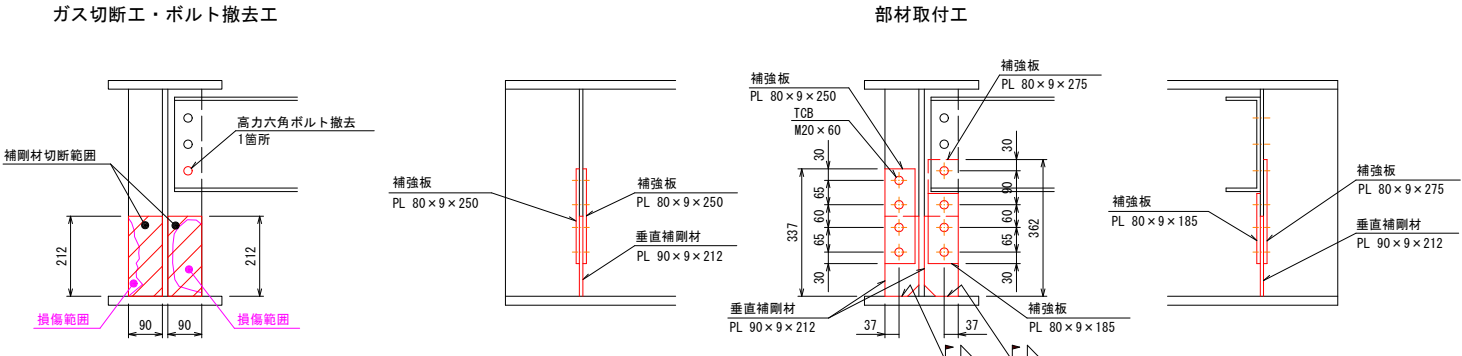
名 称	規 格	単位	数 量
芯 出 し 調 整 工		m2	0.03
鋼 桁 孔 明 工	φ22.5孔	孔	2
部 材 取 付 工		部材	3
現 場 溶 接 工	すみ肉溶接、脚長6mm	m	0.12
高力ボルト本締工		本	4
ピンテール仕上げ工		本	4

※算式は数量計算書を参照

材料表

名 称	規 格	単位	数 量
補 強 板	SS400 PL 80×9×250	個	2
垂直補剛材	SM400A PL 90×9×150	個	1
高力ボルト	S10T TCB M20×60	組	4

当板補修工（２） S=1:10
A2G1側



数量表（構造物撤去工）

名 称	規 格	単位	数 量
ガ ス 切 断 工	t=9mm	m	0.78
ボ ル ト 撤 去 工		本	1

※算式は数量計算書を参照

数量表（当板補修工）

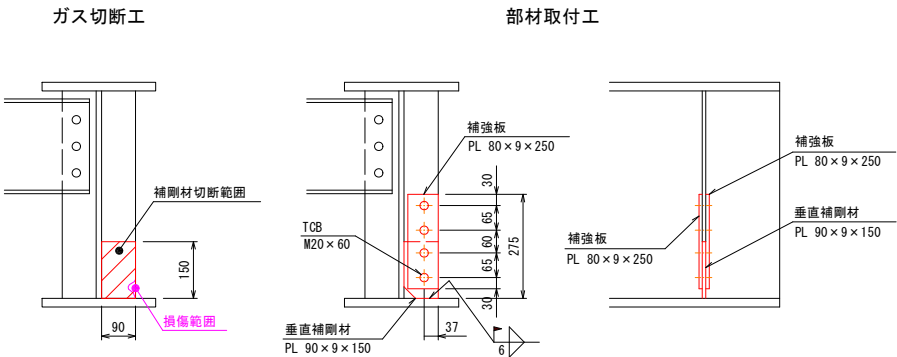
名 称	規 格	単位	数 量
芯 出 し 調 整 工		m2	0.06
鋼 桁 孔 明 工	φ22.5孔	孔	3
部 材 取 付 工		部材	6
現 場 溶 接 工	すみ肉溶接、脚長6mm	m	0.24
高力ボルト本締工		本	8
ピンテール仕上げ工		本	8

※算式は数量計算書を参照

材料表

名 称	規 格	単位	数 量
補 強 板	SS400 PL 80×9×275	個	1
	SS400 PL 80×9×185	個	1
	SS400 PL 80×9×250	個	2
垂直補剛材	SM400A PL 90×9×212	個	2
高力ボルト	S10T TCB M20×60	組	8

当板補修工（３） S=1:10
A2G2側



数量表（構造物撤去工）

名 称	規 格	単位	数 量
ガ ス 切 断 工	t=9mm	m	0.33

※算式は数量計算書を参照

数量表（当板補修工）

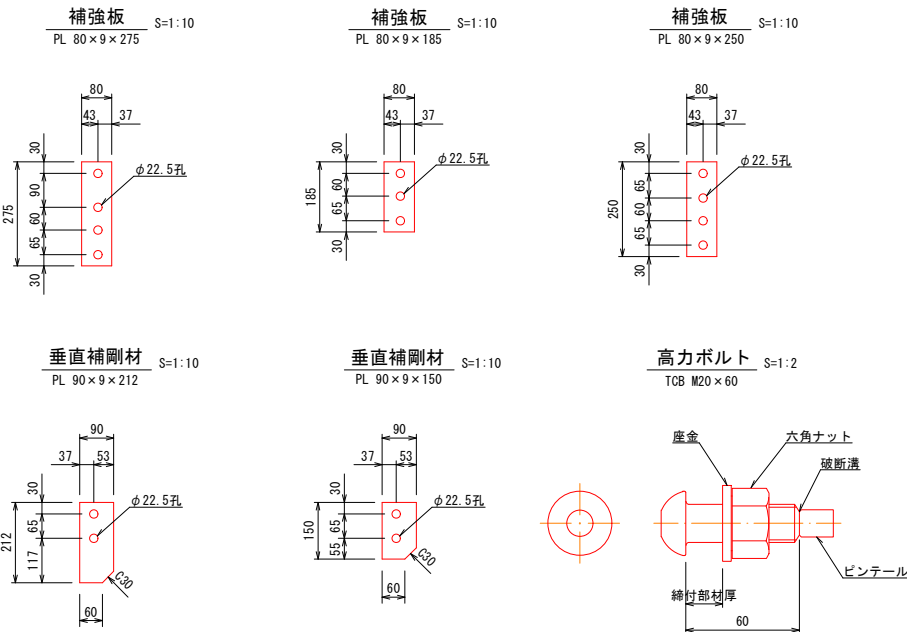
名 称	規 格	単位	数 量
芯 出 し 調 整 工		m2	0.03
鋼 桁 孔 明 工	φ22.5孔	孔	2
部 材 取 付 工		部材	3
現 場 溶 接 工	すみ肉溶接、脚長6mm	m	0.12
高力ボルト本締工		本	4
ピンテール仕上げ工		本	4

※算式は数量計算書を参照

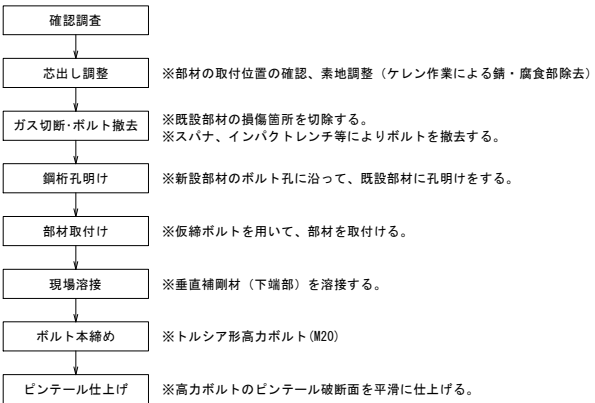
材料表

名 称	規 格	単位	数 量
補 強 板	SS400 PL 80×9×250	個	2
垂直補剛材	SM400A PL 90×9×150	個	1
高力ボルト	S10T TCB M20×60	組	4

部材詳細図



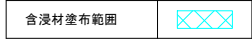
施工フロー



年 度	令 和 7 年 度
番 号	災 号
工 事 名	町道大蔭線大蔭橋修繕工事
道川名称	町道大蔭線
施工箇所	鹿足 [®] 市津和野 [®] 町鷺原地内
図面名称	大蔭橋補修計画図(2)
縮尺	図示
設計者	会 社 及 び 責 任 者
測 量	
図 示	
設 計	
	7 葉 の 内 3

表面含浸工(床版)・伸縮目地補修工

床版下面平面図 S=1:50



※含浸材塗布面積(1径間当り)

(1)床版下面

$$A=(1.400+0.350*2)*19.400=40.740\text{m}^2$$

1. 施工数量は、事前調査を実施し確定すること。
2. 含浸材塗布はコンクリートが湿り気を帯びている状態を確認の上、行うこと。
3. 含浸材の養生は、含浸材の施工仕様を確認の上、適切に行うこと。

1. 下地処理

2. けい酸塩系表面含浸材塗布
塗布1回目（標準使用量200g/m²）

3. けい酸塩系表面含浸材塗布
塗布2回目（標準使用量100g/m²）

施工フロー

1. 前処理
施工前に前処理（下地処理・劣化部除去・断面修復）を行い、ほこり・油脂類等の有害物をサンダーケレンにより除去する。
2. 含浸材1回目塗布
コンクリート表面が乾燥していることを確認した後、刷毛等で均一に塗布する。
3. 含浸材2回目塗布
コンクリート表面が乾燥していることを確認した後、刷毛等で均一に塗布する。
4. 養生工
含浸材塗布後、2週間以上の期間、養生を行う。

含浸材塗布面積（大蔭橋）			
部 材 名	箇所数	1箇所当りの面積 (㎡)	合計面積 (㎡)
床 版	2	40.740	81.48
※数量計算書を参照		総面積	81.48

平面图 S=1:50



施工フロー

確認調査

↓

下地処理工 ※ワイヤーケレン、高圧洗浄

↓

プライマー塗布

↓

バックアップ材設置 ※ウレタンフォーム

↓

目地材充填 ※特殊弾性樹脂材

↓

養生

目地充填材
特殊弾性樹脂
(SMジョイント相当)

30

50

50

100

プライマー塗布

バックアップ材
ウレタンフォーム



名 称	規 格	数 量
下地処理工		1.62 m2
バックアップ材	ウレタンフォーム	12.30 L
目地充填材	特殊弾性樹脂（SMジョイント相当）	12.30 L

※数量計算書を参照

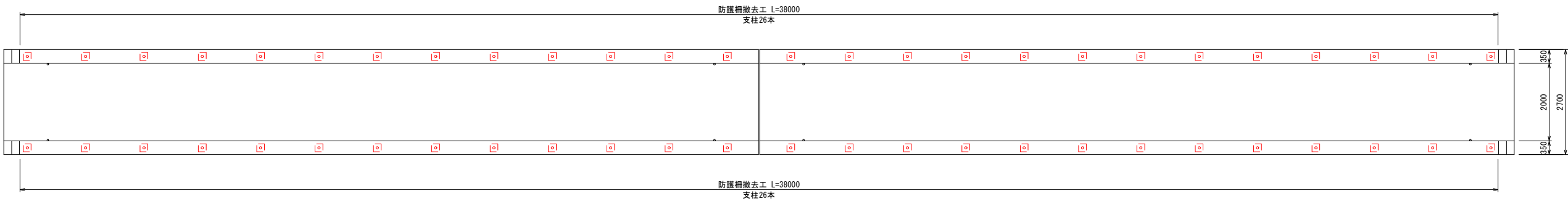
年 度	令和 7 年度
番 号	災 号
工事 名	町道大蔭陸大蔭橋修繕工事
道川番号	町道大蔭陸
施工箇所	鹿 足 ^④ 津和野 ^④ 麓 原 地 内
図面名称	大蔭橋補修計画図(3) 縮尺 1:50
会社名	会 社 及 び 責 任 者
測 量	
設 計	
	7 葉 の 中 4

大蔭橋補修計画図（４）

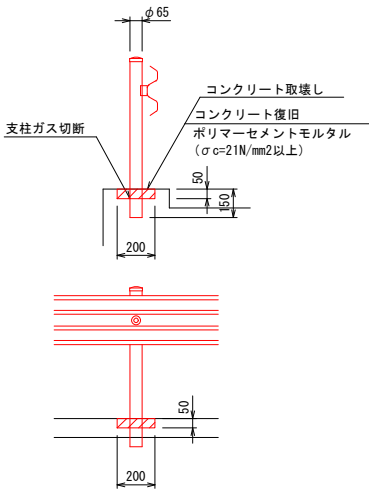
高欄取替工

防護柵撤去工計画図

平面図 S=1:60



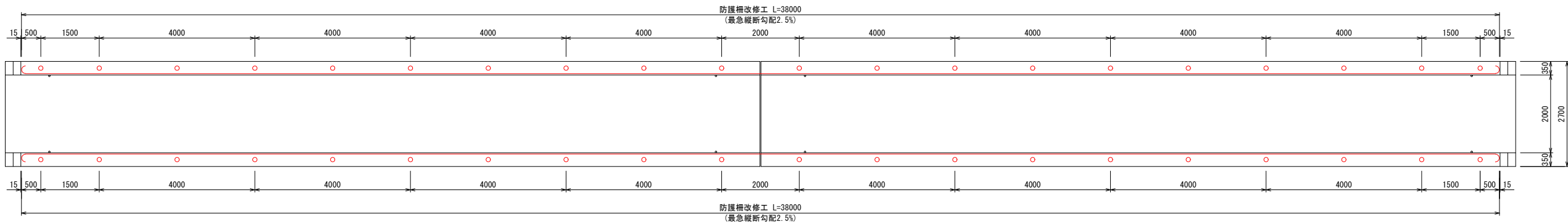
詳細図 S=1:20



※支柱切断面は防錆処理を行うこと。
※支柱切断後の支柱内部にもポリマーセメントを充填すること。

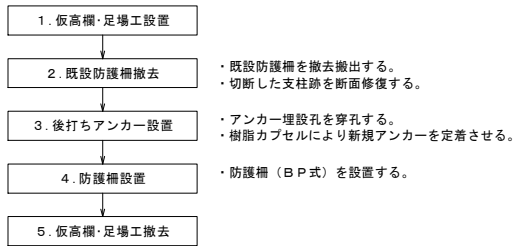
防護柵設置工計画図

平面図 S=1:60



※鉄筋探索後に支柱位置を決定すること
※支柱位置の勾配を調査後、資材発注を行うこと

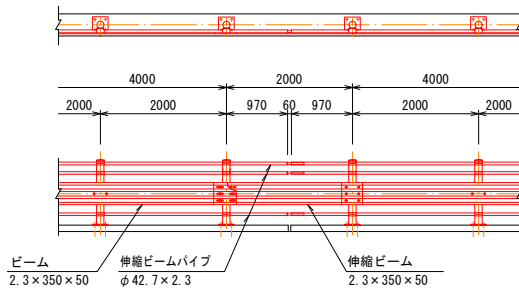
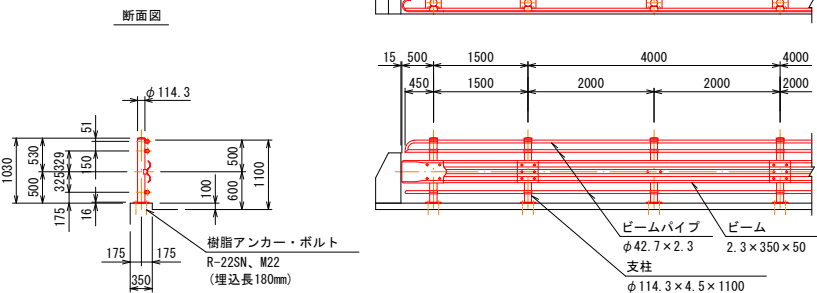
高欄取替工 フローチャート



詳細図 S=1:60

端部

伸縮部



年度	令和 7 年度
番 号	県 号
工 事 名	町道大蔭線大蔭橋修繕工事
道川番号	町道大蔭線
施工箇所	鹿足 市 津和野 町 鷺原 地内
図面名称	大蔭橋補修計画図（４）
縮尺	図示
会社名	会 社 及 び 責 任 者
測 量 者	
設 計	
7 葉の内 5	

大蔭橋補修計画図（５）

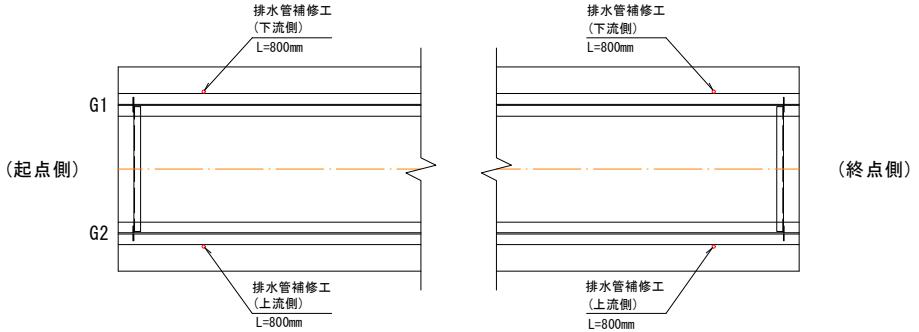
排水管補修工

特記事項

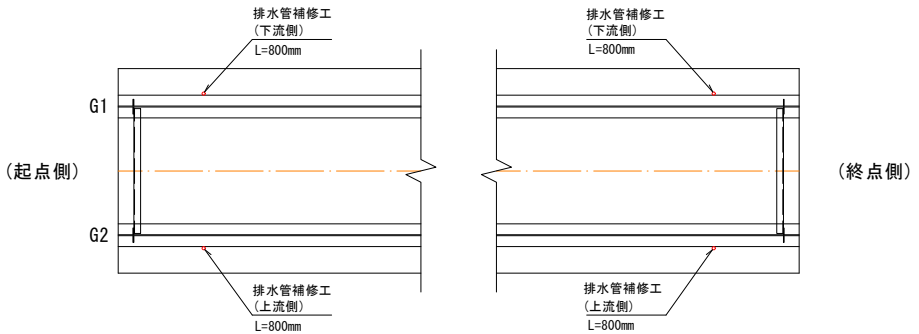
- ・施工前に現況寸法計測等の確認調査を行い、施工寸法や数量を確定させること。
- ・数量に大幅な変更が生じる場合には、監督員と相談し、方針を決定すること。
- ・取替え排水管は桁下20cm程度まで延長させること。

排水管補修計画図

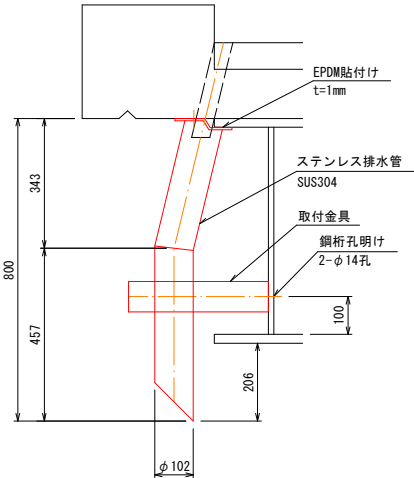
平面図（第1径間） S=1:50



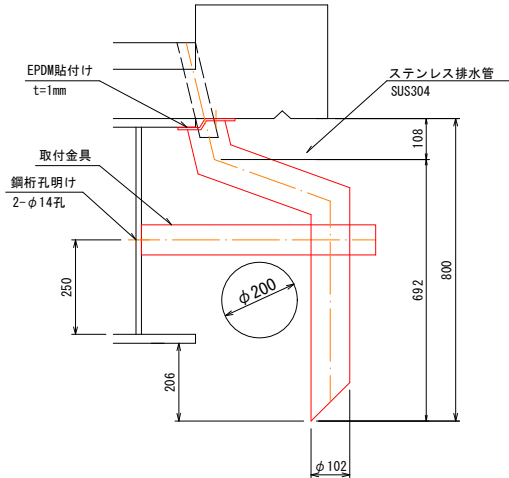
平面図（第2径間） S=1:50



断面図（上流側） S=1:10

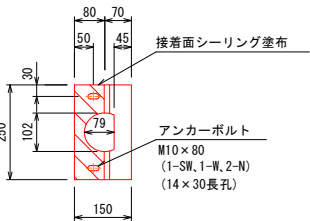


断面図（下流側） S=1:10

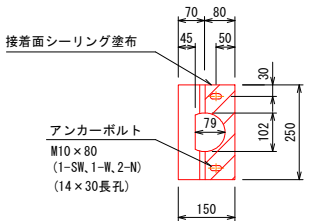


部品詳細図 S=1:10

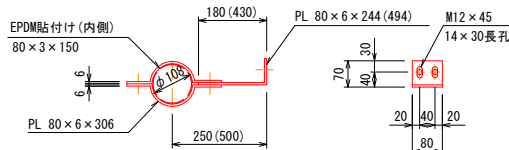
ステンレス排水管
（上流側用）



ステンレス排水管
（下流側用）



取付金具



数量表（排水管補修工:上流側）

1箇所当り

名 称	規 格	単 位	数 量
排 水 管 取 付 工		m	0.8
鋼 桁 孔 明 工	φ14孔	孔	2
ステンレス排水管	SUS304 t=1mm, φ102, L=800mm(上流側用)	本	1
アンカーボルト	M10×80 (1-SW, 1-W, 2-N)	本	2
E P D M	45×1×250	枚	1
取 付 金 具	上流側用	セット	1

※数量計算書を参照

材料表（取付金具:上流側）

1セット当り

名 称	規 格	単 位	数 量
鋼 材	SS400 PL 80×6×306	個	2
	SS400 PL 80×6×244	個	1
ボ ル ト	SS400 BN M12×45 (2-W付)	組	6
E P D M	80×3×150	枚	2

数量表（排水管補修工:下流側）

1箇所当り

名 称	規 格	単 位	数 量
排 水 管 取 付 工		m	0.8
鋼 桁 孔 明 工	φ14孔	孔	2
ステンレス排水管	SUS304 t=1mm, φ102, L=800mm(下流側用)	本	1
アンカーボルト	M10×80 (1-SW, 1-W, 2-N)	本	2
E P D M	45×1×250	枚	1
取 付 金 具	下流側用	セット	1

※数量計算書を参照

材料表（取付金具:下流側）

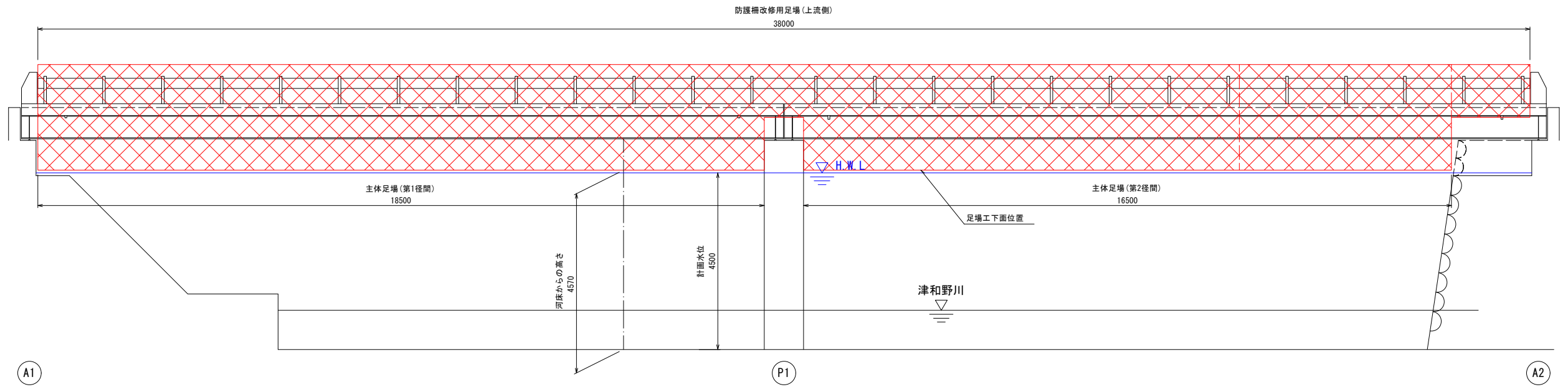
1セット当り

名 称	規 格	単 位	数 量
鋼 材	SS400 PL 80×6×306	個	2
	SS400 PL 80×6×494	個	1
ボ ル ト	SS400 BN M12×45 (2-W付)	組	6
E P D M	80×3×150	枚	2

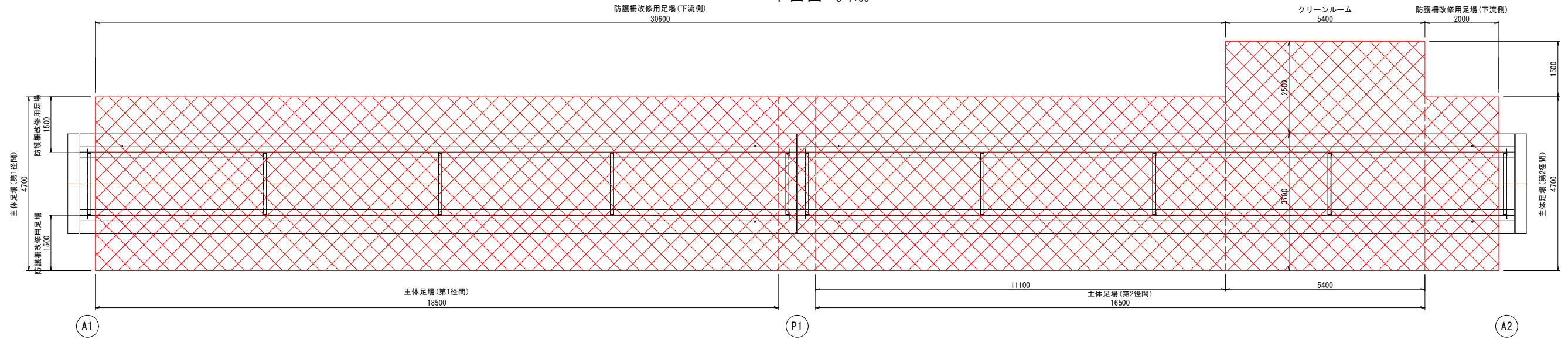
年 度	令 和 7 年 度
番 号	災 害 防 災 局 第 1 号
工 事 名	町道大蔭線大蔭橋修繕工事
道 川 種 別	町道大蔭線
施 工 箇 所	鹿 足 市 津 和 野 町 鷺 原 地 内
図 面 名 称	大蔭橋補修計画図（5）
縮 尺	図 示
設 計 者	会 社 及 び 責 任 者
測 量 者	
設 計 者	
7 葉 の 内 6	

仮設計画図

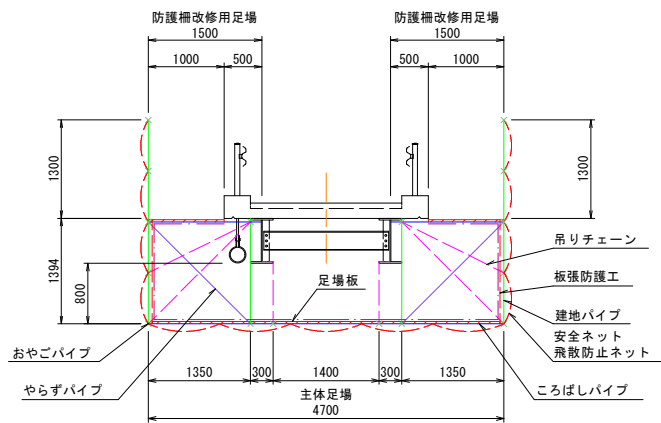
側面図 S=1:60



平面図 S=1:60



標準断面図 S=1:50



数量表 (足場工)

名 称	数 量 (掛m2)
主体足場(第1径間)	86.95
主体足場(第2径間)	72.15
防護柵改修用足場(上流側)	57.00
防護柵改修用足場(下流側)	48.90
クリーンルーム	13.50
合 計	278.50

数量表 (防護・養生)

名 称	数 量 (掛m2)
板張り防護工	373.37
塗 装 養 生	373.37
プラスト養生	373.37

年 度	令和 7 年度
番 号	災 号
工 事 名	町道大薩線大薩橋修繕工事
道川番号	町道大薩線
施工箇所	鹿足 市 津和野 町 鷺原 地内
図面名称	仮設計画図
縮尺	図示
設計	会 社 及 び 責 任 者
測 量	
監 査	
設 計	
7 葉の内 7	